

麻倉再生プロジェクト事業

取組に至る背景・事業の目的

- 大町市と姉妹都市のカリフォルニア州メンドシーノとの芸術交流をきっかけに、明治初期に麻の貯蔵庫として建設され、近年は使われなくなっていた「麻倉」を芸術・クラフト活動の拠点として有効活用できないか検討することとし、平成 21 年に「麻倉プロジェクト推進の会」を結成した。
- 大町市中心市街地活性化基本計画の目標の一つでもある「訪れたくなるまち」の実現をめざし、アート&クラフトを通じて、美しい自然の中で新しい文化と魅力の創出を図り、大町市の活性化に向け取り組んでいる。

事業内容

○海外との芸術交流プログラム

メンドシーノと大町市内の作家の作品を紹介する芸術交流展を隔年で開催。平成 23 年度は、麻倉と松本市美術館で『大町MIASA / メンドシーノ・アート&クラフトショー』を開催した。

また、芸術交流展に併せ、メンドシーノから大町に作家 4 名、訪問団 9 名を招き、市民交流を行なった。

- ・芸術交流展来場者数 延べ 1, 200 人
(前回の H21 開催時に比べて 2 倍の来場者)

○麻倉再生プログラム

地域住民や学生と協働してワークショップ形式による「麻倉」の外構整備（ウッドデッキ作りなど）を行なった。

- ・麻倉再生ワークショップ参加者 延べ 115 名



【メンドシーノとの芸術交流展】



【学生とのウッドデッキ作り】

事業効果

- 芸術交流展などの企画展やワークショップなどの活動を通じて「麻倉」は、様々な芸術家が集う芸術・クラフト活動の拠点となった。また、「麻倉」への来訪者や視察団も増え、大町市の知名度やブランド力の向上にもつながっている。
- 外構整備には、市内外からの参加者のほか、地元中学生が課外授業の一環として参加し、「麻倉」の再生が地域あげての取組となった。また、今回参加した中学生から、「手づくりの楽しさを学ぶことができた」との声が聞かれ、先生からも「今後も活用させてほしい」とのお話をいただいたことから、「麻倉」が教育の場として活用できる可能性が見い出せた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 今後も海外との芸術交流やワークショップの開催など、「麻倉」の基本となる活動を継続しつつ、若い世代の新しい人材を受入れ、企画の充実と更なる「麻倉」のアピール方法を検討していく必要がある。
- 中心市街地の人々と連携しながら、統一的なまちづくりをめざし、市民交流や観光施設としてだけでなく、教育の場としての活用も図り、人の絆を深めるコミュニケーションの場として位置付けていきたい。

【選定のポイント】

海外との芸術交流やクラフトワークショップなどの活動により、「麻倉」は様々な芸術家が集う芸術・クラフト活動の拠点となった。また、これらの取組は、中心市街地の賑わい創出とともに、大町市の新たな魅力づくりにもつながっている。

団体名 麻倉プロジェクト推進の会 (大町市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先 電話：090-1865-6181(10時～18時)	事業費	3, 020, 256円
ホームページ http://asagura.com/	支援金額	2, 947, 000円
メールアドレス omachi@asagura.com		